

こども家庭センターだより

あした

明日もしあわせ通信 (第84号) 令和5年6月号

70歳になって

70歳になったら、後進に道を譲る予定であった。譲ったかに見えたのだが本年度もここで仕事をしている。来年度は伊予市の素晴らしい後輩の皆様にはバトンタッチしていることと思う。

先日、教員になったころから、ともに仕事をし、遊んでもらっていた親友が天国に行ってしまった。昨年の夏以来声は聴いても会えないでいた。奥様からの電話が鳴った。「家族葬で…」会えないでいた自分を責めた。もっといっぱい話しておけばよかったと。

昨日母と田んぼを見に行った。母が周りの草を田んぼに投げ入れながら「なんもできんなったがや」と言った。車を運転すると言ってきかなかった母から車を奪った。鍬も持てなくなり一人で芋さえ植えることができない。水の管理もできない。田んぼの水が入りすぎたり、枯れたりしていた。ずっと母は当たり前のように畑や田んぼの世話をしてくれていたのだ。いっぱい野菜も持ってきてくれた。しかし今は、私が手をつながなければ満足に歩くこともできなくなった。あと10年は生きていて欲しい。上浮穴のすみずみから、さらに高知など遠くまで足を運び医療機器を700台以上も売って私を大学に行かせてくれた母。

大学の入学式にも付き添ってくれた。入学式で必要かと思い、言われるままに買った大学帽を渡してくれた。嬉しかったのだが、4年間1度も被ることはなかった。

小学校の殆どを広島市内で過ごした。母は夜遅くまで必死で働く姿を見せてくれた。90歳を過ぎた今でも。「どこまで優しいのかわからない」そんな姿をずっと見せてくれた。「かずおまえもそうなれよ」と背中で見せ続けてくれた。

母と全国いろんなところへ旅をした。写真を撮るたびに「えがお・えがお」と言って写真を撮った。母の笑顔は何物にも代えがたい。笑顔をいつまでも見たい。いっぱい恩返ししたい。母の愛に包まれた70年。今度生まれてくるときは、私の娘として生まれ来てほしい。

ともかく伝えよう
「70年間ありがとう。
おかげで幸せな人生を送っているよ。」
「おかあさんありがとう。」

長生きしようね (DOIG)



教育支援教室「はばたき」・・・ 学校行事をチャンスに

新学期がスタートして2か月が経ちました。今年度は、新型コロナウイルス感染者数の減少に伴って、コロナ禍以前の学校に徐々に戻っています。特に、学校行事に変化が見られます。教室生が楽しみにしている修学旅行が従来の日程で実施されました。以前、勤務していた中学校で3年生に、「中学3年間で一番楽しかった行事は？」と尋ねると、約6割の生徒が「修学旅行のタクシー研修です。」と答えました。修学旅行は、一生の思い出に残る行事であり、社会性を高める絶好のチャンスです。中学3年生に進級した教室生は、2泊3日の日程で京阪神への修学旅行に参加し、楽しい思い出を作ることができたと思います。また、その他の教室生も新学期から心機一転、徐々に学習や部活動に励んでいます。これからも運動会や文化祭などの学校行事に参加しながら成長できるよう個に応じた支援に努めます。(T. S)



お子さんのことでご心配なことがありましたら、ご遠慮なくご相談ください。

はばたきのTEL 089-989-5022 直通の携帯 080-2974-4581

夢と笑顔と感動と…

すがすがしい初夏を迎え木々の緑が美しい今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。私は、こども家庭センター家庭児童相談員の古田章と申します。相談員になってまだ2か月ほど、いわゆる新米職員ですので、現在は周りの経験豊富な相談員から教わりながらのよちよち歩きです。信頼される相談員を目指して努力しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

いまや「二刀流」で誰もが知る大谷翔平選手、そのほかたくさんのアスリート、芸能人などの躍動する姿に、子どもも大人も感動したり夢見たりしますよね。教員出身の私は、学校での生活の中で子どもたちや同僚、ときには保護者と大小の感動を味わい、夢を語り合う日々を過ごしました。もちろん、主役は子どもたちです。子どもたちがいるところには夢と笑顔と感動があふれていて、しんどくても明日に向かう力が湧いてくる…、そんな感じがしました。

子どもには夢があります。私たち大人は、子どもが夢を持てるように、その夢を笑顔で話すことができるように、正面を向いてたっぷりと聴きたい。そして、一緒に笑ったり泣いたりしてたくさん感動を経験し、心豊かに共に育ちたいと思います。が、現実はなかなか…。子育て現役の方々と、共に悩みながら一歩ずつ、子どもをまんやかに幸せを目指して歩みたいと思います。(A.F)



《おおぞら 通信》

子どもの居場所「おおぞら」を開所します

不登校やひきこもり等、いろいろな事情で学校等に足を運ぶことが難しく、家庭で多くの時間を過ごしている小中学生にとって、家の他でも安心して過ごせる施設の「おおぞら」を、6月1日に開所します。

「おおぞら」は、

- 心穏やかにゆったりと過ごせる、安全・安心な時間や空間のある施設です。
- 職員は、一人一人に寄り添い、家から外への一步を踏み出せるよう、丁寧に支援していきます。
- 子ども一人一人の自己決定を尊重しながら、やる気を支援していきます。
- 外遊びや農業体験、施設見学等の豊かな生活・社会体験を積んでいきます。
- コミュニケーション力等の社会性の向上を支援していきます。
- 送迎や食事の提供も可能ですので、時間を意識して、健康管理や生活リズムの改善も支援していきます。

ご利用については、こども家庭センター又は、「おおぞら」(TEL989-5014)にご相談ください。



～ひと休み…～

新年度がスタートして、はや2か月が経ちました。巡回も無事一巡したところですが、どの園も入園、進級の喜びに満ち張り切っていました。先生の話によると、進級を機会に新しい気持ちで張り切っている子と、逆に新しい環境に緊張するのか退行的な現象が見られる子が目立つようです。高揚感と戸惑いの中で毎日頑張ってきて子どもたち。ゴールデンウィークも過ぎて疲れが生じて不思議ではないですね。ここらあたりで気持ちをひと休みさせましょう。家庭では今できること、興味のあることをゆっくりと。決して無理をさせないようにお願いします。 k



伊予市こども家庭センター
伊予市総合保健福祉センター2階
伊予市尾崎3-1 ☎989-6226
携帯 080-2974-4580